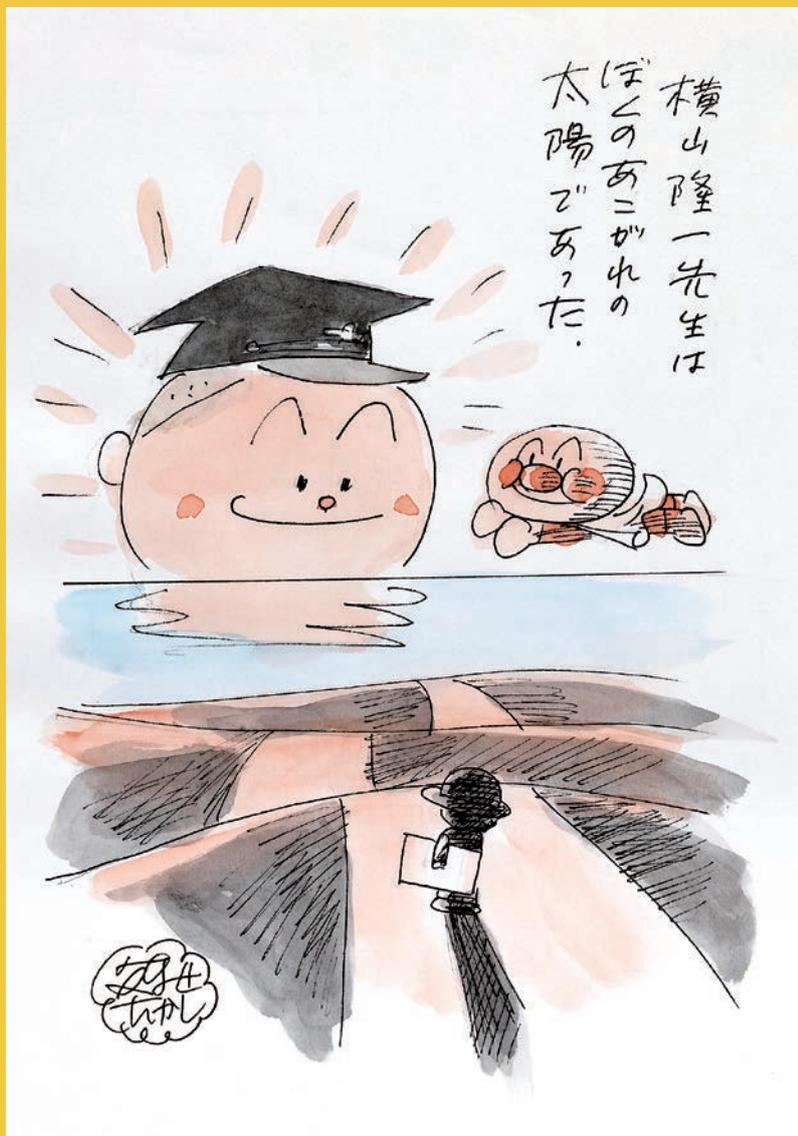


**FUKU-FUKU**



横山隆一記念まんが館 特別企画展

伝「**やなせたかしと横山隆一**」展



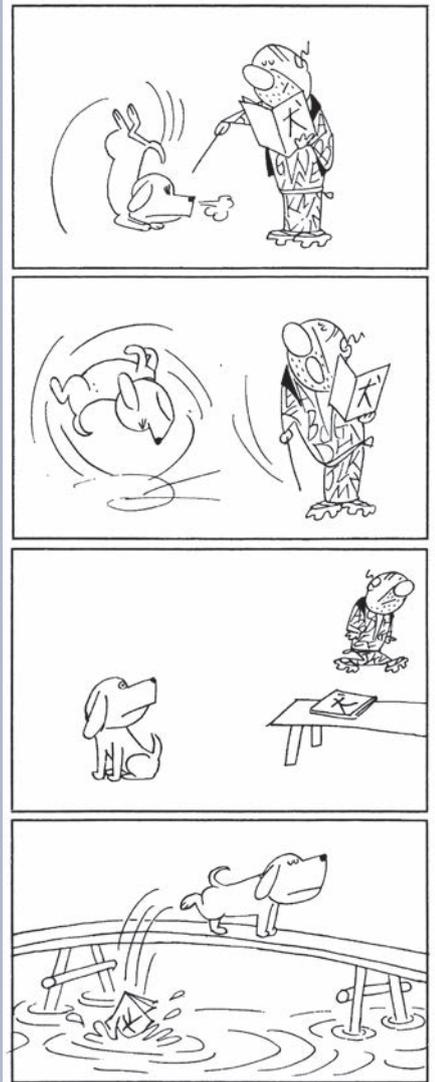
©やなせたかし

今年3月31日から始まるNHK連続テレビ小説「あんぱん」の主人公、高知の生んだちのみ、高知の家、昭和三十二年の横山隆一と、国民的キャラクター「パンマン」のやなせたかしをテーマに企画展を開催します。

二人は同じ旧制城東中学校（現・高知追手前高校）の卒業です。

やなせは、旧制中学校時代に、高知で開催された横山隆一ら「新漫画派集団」展を見たことや、同級生の姉が横山隆一の妻で、彼から伝えたという。まんが家の生活に興味をいだき、将来の職業の選択肢としてまんが家を考えたという後、やなせにとつて隆一は憧れの人物。二人の関わり合いにスポーツをあて、彼の自伝をもとに故郷・高知ならはの作品紹介をします。

**フクちゃん** 横山隆一 (1968年)



開催期間 ● 2025年3月8日(土)～8月31日(日)  
 場所 ● 横山隆一記念まんが館企画展示室  
 時間 ● 9:30～17:30(最終入場は17:00まで)  
 休館日 ● 月曜日 ただし祝日・振替休日は開館  
 6月3日～6日は展示替えのため休止  
 観覧料 ● 一般500円(400円)、中高生300円(240円)、小学生200円(160円)  
 ※常設展と共通チケット  
 ※( )内は団体(20名以上)または、学校利用料金  
 ※65歳以上の方及び身体障害者手帳(1, 2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は半額料金  
 主催 ● 高知市 横山隆一記念まんが館  
 主管 ● 公益財団法人高知市文化振興事業団  
 共催 ● 香美市立やなせたかし記念館

第20回  
まんがの日  
記念

4コマまんが大賞

作品展の報告と次回募集開始について

期間 ● 2024年12月14日(土) ~  
2025年1月13日(月祝)  
場所 ● 横山隆一記念まんが館 企画展示室



「第20回4コマまんが大賞」に応募いただいた作品のうち、入賞作品を含む一次通過作品と前回の入賞作品・ギャラリー賞を加えて、計199点を展示しました。

来場者の皆様にお気に入りの作品を選んで投票してもらい、得票数が多かった作品に贈られる「ギャラリー賞」を今年も実施。172名からの投票により、一般部門3作品、

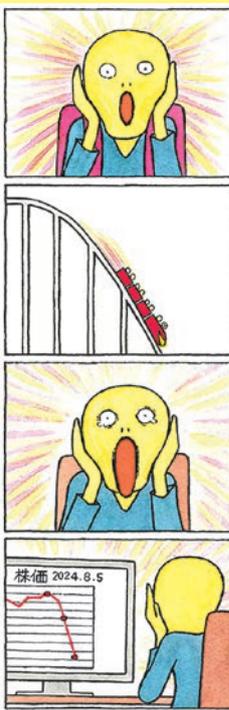


4コマまんが大賞  
表彰式

ジュニア部門5作品がギャラリー賞に選ばれました。横山隆一記念まんが館のホームページでは、作品の画像とともに投票の理由(抜粋)も公開しています。  
また、21回目の「4コマまんが大賞」の作品募集が、4月から始まります。詳しい応募要項等は3月下旬ごろから公開の予定です。  
あなたの作品を楽しみにしています。奮ってご応募ください。

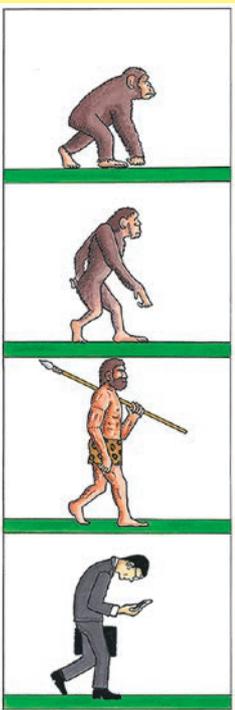
ギャラリー賞 一般部門

【叫び】



浅沼ひろゆき

【進化】



P.N. 豊村真理

【安全運転】



小林尚武

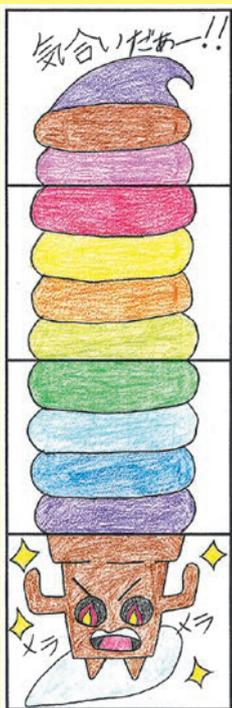
ギャラリー賞 ジュニア部門

【ガムをたべたら...】



市川すず

【長〜い！ソフトクリーム】



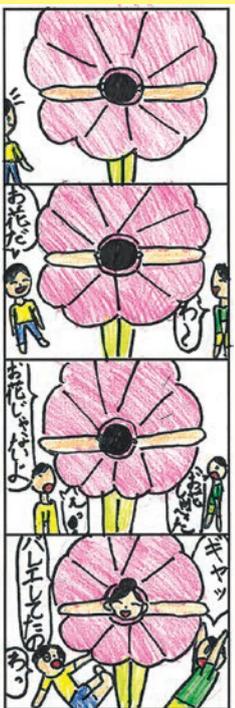
杉藤美優

【猛暑】



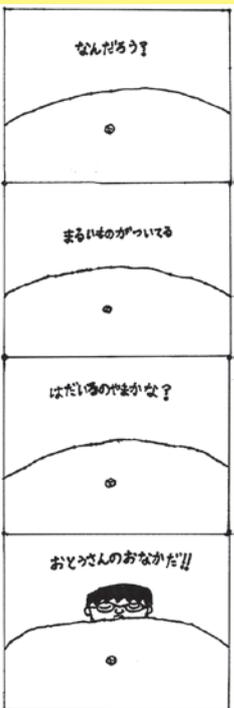
市川香保子

【おはなだヨ】



P.N. グルグルちゃん

【なんだこれ?】



P.N. ニシダー

# やなせたかしと隆一とまんがと高知

令和七年の今年は昭和百年にあたる。

昭和前半生まれの人にとっての百年前は江戸時代だ。令和生まれの子どもにとって、昭和はそれほど昔になった。

そんな昭和の戦前・戦中・戦後・高度成長期を通して、多くの日本国民に愛されてきたまんがの人気キャラクターが、横山隆一のフクちゃんである。新聞の4コマまんがで登場したフクちゃんは、大人から子どもまで、全ての年代の人々に愛されていた。

そして、昭和生まれながら、多くの人たちに認知されたのは平成に入ってから、という新たな人気キャラクターが、やなせたかしのアンパンマンである。アンパンマンは、幼稚園・保育園の園児たちからの支持を受け、日本で子どものいる家庭での存在感は圧倒的だ。

時代を代表するようなキャラクターを生んだ、横山隆一とやなせたかしは共に高知県出身。

隆一は1909（明治43）年生まれ、やなせは1919（大正8）年生まれで、隆一はやなせの10歳先輩である。

隆一の通った中学、旧制城東中学（現・高知追手前高校）にやなせも通った。やなせの父は出版社や新聞社に勤めていたこともあり、家には沢山の本や雑誌があったという。中学時代のやなせが、そのモダンさにあこがれた雑誌「新青年」に、隆一も挿絵を描いている。中学卒業後、親せきを頼って上京した隆一は、20歳過ぎから投稿漫画で認められ、22歳の頃には「新青年」の挿絵の常連であり、同年代のまんが家を志す仲間と〈新漫画派集団〉を結成している。この集団の活躍ぶりを、高知の中学生のやなせも知っていた。

その〈新漫画派集団〉が高知で大規模な展覧会を開いた。集団の稼ぎ頭、隆一の故郷だからであろう。中学生のやなせは、その展覧会を見て、こんな簡単な絵なら自分でも描けると思ったということも、よく語っている。当館に当時の作品は見当たらないが、展示作品リストが載った新聞の切り抜きが残っている。やなせの将来に影響を与えた一つのきっかけだろう。

隆一は26歳で、中学時代の親友・稲垣敏行の妹と結婚した。その直後、東京朝日新聞に「江戸ッ子健ちゃん」という4コマまんがの連載を依頼され、その作品は人気を呼び、実写映画化もされた。

やなせの同級生に、稲垣氏の弟がいた。彼から、隆一が映画の撮影現場で女優さんたちに囲まれている写真などを見せてもらい、「まんが家とはなんという職業だろう」と思ったとも書き残している。



漫画展の展示作品リストが載った新聞記事



「くじらの鼻歌」創刊号より ©やなせたかし

その後、進学・就職・戦争と紆余曲折ありながら、やなせはまんが家となった。

身近に目標とできる先輩がいたということは大きい。

ところで、高知はまんが王国・土佐と標榜しているが、これは戦後のまんが界を席巻していた〈漫画集団〉が、隆一に率いられ、高知を何回か訪問したことに刺激を受けて、アマチュア・セミプロでまんがを描いていた人たちが集団を結成して切磋琢磨していたことに始まる。漫画集団が来高した際には小型飛行機を飛ばして歓迎するほど県民挙げて熱狂的であったらしい。そして、アマチュアまんが家たちに発表の場を与えていたのは高知新聞の投稿欄だったと言ってもいい。

高知のまんが文化に刺激を与えていたのは、まんが界の中心にいた隆一の存在と「高知新聞」で、その高知新聞社には、隆一の中学時代の先輩で親友だった青山茂がいた。

青山茂は終戦直後に高知新聞社が発行した『月刊高知』の編集長で、やなせはその編集部配属されていた。

高知新聞を1年で退職したやなせを、三越宣伝部に採用してくれたのが、高知出身の重役・井上慶吉である。井上のもと、東京の第一線で活躍していた高知ゆかりの文化人たちの集まり〈南風会〉に、やなせも加わっている。南風会は同人誌「南風」を出版し、井上は経済的援助をしていた。創刊は1953（昭和28）年新春。雑誌には高知出身やゆかりの作家、文化人が毎号10名程度、文章などを寄せる。やなせは三越を退社する前後で、創刊号からカット類を手掛けている。隆一も表紙を担当したり、短文を寄せたりしている。この南風を通じて、隆一も絵描きとしてやなせを認識していただろう。その後、隆一らが率いる〈漫画集団〉に、やなせも参加させてもらっているが、だれでもが知っているヒット作がない、とやなせは劣等感を持っていた。

アンパンマンがブレイクしたのが70歳代と遅咲きのやなせたかし。故郷・高知の人の縁は、確かにまんが家やなせたかshiを導いていた。

# 2025年3月末 退任でご挨拶



博物館の第一の存在意義は、そこにある、あるいはあった、物や記憶や記録や自然を後世に引き継いでいくことだと思っている。そこで働く者は、100年後、200年後に伝えるべきモノをバトンとして運ぶリレーヤーだ。横山隆一記念まんが館は開館から20年以上たったが、未整理の資料が沢山残ってしまった。心残りではあるが、後は次の方に託すことになる。当館での10年間の在職中には、多くの皆様にお力添えいただきました。心より感謝申し上げます。そして今後とも横山隆一記念まんが館をどうぞよろしくお願いいたします。

館長・田所菜穂子

## 行事報告 REPORT

2024年12月21日(土)に、冬のまんが体験イベント「まんがで遊ぼう! プレクリスマス」を開催しました。

前日にテレビで宣伝を行った効果か、当日はひっきりなしにたくさんの子どもたちがやってきてくれました。会場のまんがライブラリー2はほぼ常時満席の状態で、急遽まんがライブラリー1にも工作机を設け対応するなど、総勢82名の参加者に工作を楽しんでいただきました。来年度は100人参加があっても対応できるように会場を考えます。またぜひあそびに来てください。

## 行事報告 REPORT

# 「まんが・漫画・マンガ展! 2025」の会場はたくさんのパンに包まれました。

2025年2月、高知漫画集団と高知漫画グループくじらの会による合同作品展「まんが・漫画・マンガ展! 2025」を開催、会場は平面から立体まで約300点の多彩なまんがが並びました。

交流コーナーには県内外からの応募があったほか、スイスの方がまとめたお遍路まんがをNPO法人お遍路ラボから紹介いただき、参考出品として展示・公開しました。さらに会場で絵を描いて展示する参加コーナー「オリジナルパンを描こう!」には子どもから大人まで多くの方にご参加いただき、これは食べてみたい!と思うパンから食べられないパン・絶対食べたくないパンまで、横山隆一記念パン屋さんに大変賑やかに陳列されました。ご参加いただいた皆さんありがとうございました!



たくさんのパンに店主も大喜びでした

## 行事案内 INFORMATION

# 公立美術館共同巡回展 「これが漫画!展」

- 湯前まんが美術館(熊本県)
  - 2025年5月24日(土)～7月6日(日)
- 合志マンガミュージアム(熊本県)
  - 2025年8月1日(金)～8月28日(木)
- 横山隆一記念まんが館(高知県)
  - 2025年9月13日(土)～11月4日(火)
- 勝央美術文学館(岡山県)
  - 2025年11月22日(土)～12月7日(日)

令和5年度より、まんが関連博物館と現代まんがに通ずる基礎を作った組織「漫画集団」に焦点を当てた全国巡回展を開催すべく協議を行ってきました。2年間の準備期間を経て、公立美術館共同巡回展「これが漫画!展」を令和7年5月より順次開催します。

巡回展は、北沢楽天、横山隆一、那須良輔の3人の作品を中心に、明治から昭和にかけてのまんがについて取り上げていきます。北沢楽天は、日本初の職業まんが家とみなされることもあり、「漫画」という用語が広く一般に普及するのに多大な影響を与えたと言われています。那須良輔は、昭和初期に児童まんが家としてデビューしたのち、戦後に似顔絵を用いた風刺漫画の連載を長期にわたって続けました。

展示は3章構成となっており、当館は朝日新聞で連載した「フクちゃん」の原画を中心に第2章「戦争と漫画」を担当しています。各館でしか展示されないものもありますので、足を運べる方はぜひ全館制覇をしてみてください。

なお北沢楽天の関連施設である、さいたま市立漫画会館では2026年2月に開催予定です。

## 新着図書(2024年11月~2025年1月)

- 高知出身まんが家**  
『令嬢だって甘々な恋がしたい!!』 アンソロジーコミック 森野きこり 他  
『首都高SPL』11巻 楠みちはる  
『きんこん土佐日記』14巻 村岡マサヒロ  
『クロシオカレント』3巻 こかむも
- オススメピックアップ!**  
『これ描いて死ぬ』1~6巻 とよ田みのる  
『女の園の星』4巻 和山やま  
『ダイヤモンドの功罪』6~7巻 平井大橋
- その他、続々入荷中!



新年度になれば小学一年生のランドセルは黄色に染まる。フクちゃん柄が描かれていた期間が3年あったが、大きな力が働いて青色のキャラクターに変えられてしまった。あまり知られていないが、フクちゃんは「高知市観光PRキャラクター」でもある。まんが王国・土佐の源流を作った横山隆一。彼を顕彰する施設を持つ高知市のランドセルカバーは、ぜひフクちゃんを採用してほしいと思う。名残はフクちゃんの描かれた横断旗を大事に使ってくださっているのを見かけることである。見かけた人に幸運が訪れますように。(大)

## 館のご案内

**開館時間** 9:00~18:00  
**休館日** 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館) 年末年始(12月28日~1月4日)

**常設展示観覧料**  
一般410円  
団体(20名以上)320円・65歳以上200円・高校生以下無料  
身体障害者手帳(1、2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者(1名)は200円

**お問い合わせ先**  
〒781-9529 高知市九反田2-1  
高知市文化プラザかるぼーと内  
横山隆一記念まんが館  
TEL:088-883-5029  
FAX:088-883-5049  
URL:https://www.kfca.jp/mangan/  
E-mail:mangan@kfca.jp



横山隆一記念まんが館へは、高知市文化プラザかるぼーと3階の入口よりご入場ください。

